

2025 年 前・後期 授業改善アンケート

科目開設部門別集計結果（キャリアセンター）に対するコメント

キャリアセンター長

中田 真佐男

キャリアセンターが開講している全学共通教育科目では 16 科目が授業改善アンケートの実施対象科目となっていますが、このうち 15 科目（内訳は実施必須科目では対象の 11 科目の全て、実施任意科目では対象の 5 科目のうち 4 科目）でアンケートが実施されました。対象 16 科目の延べ履修者 521 名のうち 402 名が回答しており、回答率は 77.1%と大学全体（58.1%）と比べて高くなっています。

・用いられた授業手法

授業で用いられた手法に関する設問では、キャリアセンター開講科目の特徴が明確に表れています。特に、

- グループワーク：81.1%（大学全体 19.4%）
- ディスカッション：54.5%（大学全体 10.3%）
- プレゼンテーション：48.5%（大学全体 11.1%）
- コメントペーパー：36.6%（大学全体 23.2%）
- 問題解決型授業：16.9%（大学全体 1.7%）

は、いずれも大学全体を大きく上回る数値となっています。これらの結果から、キャリアセンター科目では、学生の反応を確認しながら思考力や協働力を高めるアクティブ・ラーニングが中心的行われていることが読み取れます。

・授業を通じて身についた資質・能力

学生が授業を通じて身についたと回答した資質・能力についても、以下のように大学全体と比較して高い割合が示されています。

- コミュニケーション能力：71.1%（大学全体 11.1%）
- 協働力：47.3%（大学全体 5.3%）

- 柔軟な発想力：46.8%（大学全体 10.1%）
- 人脈形成力：43.0%（大学全体 2.2%）
- プレゼンテーション能力：38.3%（大学全体 6.9%）
- 構想力：30.6%（大学全体 9.6%）
- 俯瞰力：30.3%（大学全体 7.5%）
- 課題解決力：26.1%（大学全体 6.6%）
- 課題発見力：22.4%（大学全体 7.9%）

これらの結果から、キャリアセンター科目の学びが、学生のキャリア選択の幅を広げ、将来の成長に必要な力の育成に寄与していることが確認できます。

・授業に対する評価

授業全体の満足度を示す項目 14「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」は 4.68 でした。2023 年度の 4.71、2024 年度の 4.72 からはずかに低下しているものの、大学全体（4.39）は大きく上回っており、継続して高い評価が維持されていると言えます。加えて、項目 13「この授業のレベルは適切であった」も 4.51 と高評価を得ています。

なお、授業評価の上記項目 14 と項目 12「この分野への興味・関心が引き起こされた」の回答の相関係数は、2024 年度は 0.60 となり、2023 年度の 0.73 から低下したことが課題となっていました。2025 年度は 0.74 と回復を見せています。

こうした高い評価には、適切なレベル設定のもと、「用いられた授業手法」で述べた）効果的な手法を取り入れた授業を通じて、「授業を通じて身についた資質・能力」で示した）今後のキャリア形成に不可欠な資質・能力を身につけられたという、履修学生の大きな満足感が反映されていると考えます。

授業改善アンケートの回答結果から、キャリアセンターが開講している全学共通教育科目は、大学が掲げる「卒業の認定に関する基軸」のうち、特に

2. 論理的かつ俯瞰的に物事を把握し、情報を批判的に吟味して、課題を発見・解決することができる。
3. 豊かな人間性を持ち、多様な人々と協力して社会に貢献する意欲をもって、社会の諸事象について主体的かつ総合的に判断できる能力を身につけている。

に強く関連する思考力・判断力・表現力・主体性・協働性などを学生が高めていくことに貢献していると判断できます。

ただ、授業を通じて身についた資質・能力に関し、当該分野の「知識・学力」が身についたと回答した学生の割合は 61.7%と大学全体（84.8%）より低くなっています。これは、既習知識の実践的活用を重視した授業構成が中心になっているためだと考えられますが、今後は、キャリアセンター開講科目の従来の「強み」に加え、「知識の習得」にも配慮した授業方法を検討・実践していくことでさらなる改善が図れるものと考えます。